

# 本学における新型コロナウイルス感染把握のための 臨地実習前PCR検査結果の特徴について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 光安, 早織, 佐守, 秀友, 西村, 直行, 丹, 智絵子, 塩谷, 英之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1180">https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1180</a>

2-P-3

## 本学における新型コロナウイルス感染把握のための 臨地実習前 PCR 検査結果の特徴について

光安 早織<sup>1)</sup>佐守 秀友<sup>2)</sup> 西村 直行<sup>2)</sup> 丹 智絵子<sup>1)</sup> 塩谷 英之<sup>1)</sup>

本学では 2021 年 6 月より感染症法に基づく登録衛生検査所として PCR 検査センターを設置し、臨地実習に赴く直前の学生全員に対し PCR 検査を実施した。本学における PCR 検査結果とその特徴について報告する。

対象者は本学に所属する学生（無症状）であり、PCR 検査は厚生労働省の認可を受けたダイレクトリアルタイム RT-PCR 法試薬にて行った。検体は唾液とし、学生により自己採取された。陽性基準はターゲット蛍光の Ct 値 40 以下とした。本学における結果と神戸市の PCR 検査陽性率（有症状者）を比較した。

2021 年 6 月から 2022 年 8 月までの本学における PCR 検査の延べ数は 3044 件であった。本学の PCR 検査陽性率は、デルタ株の感染が多くを占めた第 5 波においては最高 1.0%であったが、オミクロン株に置き換わった第 6 波では最高 8.7%であり、調査期間内で最も高い陽性率であった。直近の第 7 波では最高 5.3%であった。次に、本学と神戸市における PCR 検査陽性率の推移を比較した結果、有症状者と無症状者の違いはあるものの、神戸市における陽性率が示す波と本学における陽性率の波のピークはほぼ一致しており、かつ本学においては低い陽性率を維持していたが、特に第 5 波において陽性率が低かった。

本学で第 5 波において陽性率を低く抑えることができた要因としては、本学でワクチン接種を高率に行ったこと、及び学生や教職員が協同することにより感染拡大予防へとつなげることができたことが考えられる。

---

1) 神戸常盤大学すこラボ（健康生活研究所） 2) 医科学研究所神戸常盤大学 PCR 検査センター